

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號三第 卷二第

論說

●在外正貨處分ニ就テ

法學博士 小川郷太郎

●穀物定期取引論

助教授 河田 嗣郎

●戦後ノ米國ニ於ケル歐洲移民運動ト日本移民問題(二完)

講師 米田庄太郎

研究

●職工ノ災害扶助制度(工場法第十五條ノ施行)

法學博士 戸田 海市

●家中工業ニ就テ

同志社大學教授 瀧本 誠一

●本邦出生率増加ノ原因(二完)

講師 高田 保馬

雜錄

●經濟雜話(二)

法學博士 田島 錦治

●南北米經濟關係ト日支經濟關係戰後經濟問題

法學博士 神戶 正雄

●歐洲戰爭ト其主要ナル社會學的因素

講師 米田庄太郎

●職工扶助令ニ就テ

助教授 山本美越乃

●英國ノ食料品ト物價

助教授 河田 嗣郎

●獨逸ノ市統計所小觀

教授 財部 靜治

●まるさす生誕百五十年記念會記事

講師 本庄榮治郎

南北米經濟關係ト日支經濟關係

(戰後經濟問題)

法學博士 神戸 正雄

此度ノ大戰争ニハ各交戰國ハ其々相當ノ理由アツテ從事シテ居ルニトデアアラウガ、特ニ英獨二國ニ取ツテハ國民經濟上重大ナル意義アル所デアアルガ、局外者ガ經濟上ノ打算カラ見テ居ルト、思ヒ切ツテ不經濟ナ仕事ヲ確カナ見込モナキ目的ノ爲

雜錄

メニヤツテ居ルヤウニ考エラレル。いんがーそゝる(1)ノ言ヲ以テスレハ、交戰國ハ其々蓄積額ノ四倍ツツテ戰費トシテ支出シツツアルトイフ(年戰費計三百二十億圓、年蓄積額計八十億圓)即チ是マデノ汗水ノ結果ニ屬スル元本ヲ壞シテ喧嘩スルトイフ思ヒ切ツタ大散財ヲ爲シツツアルトイフ其ノ傍ニ、喧嘩ニ花ガ咲ケバ咲クホド益々漁夫ノ巨利ヲ捉ミツツアル合衆國ノ控ヘ居ルコトハ愈々局外者ニ與味ヲ與エナククレバナラス。但シ斯ノ如キモノ獨リ米國バカリテハナク日本モ亦均シク之ニ御相伴ヲ爲シツツアル所デアアルガ、勿論其程度ハ到底米國トハ比較ニナラヌ。併シ漁夫ノ利ニ慣レテ油斷チシテ居ルト、戰爭終了ノ後ニ大打撃ヲ蒙リ、得タルモノヲ凡ヘテ吐キ出サナククレバナラナクナルカラ、豫メ戰後ノ結果ヲ研究シテ、其打撃ヲ輕減シ、併セテ適當ニ其ノ復タノ機會ヲ利用スル準備ヲ講スルノ必要ガアル。

此ハ日本モ是非爲スヘキコトト信ズルガ、現ニ米國ニハ此ガ既ニ問題トナツテ相當ニ研究セラレツツアル。昨九月ニ米國政治及社會學院ニテ出タル報告(2)ハ即チ其一端デ、戰後ノ米國經濟ニ關スル諸家(特ニ其中ニハ外國ノ學者モアル)ノ意見ヲ集メテ參考ニ資セントシテ居ル。予ハ此事業ノ大ニ有益ナルコトヲ信シ、曩キニ我京大經濟科諸官ガ大典紀念號トシテ戰後經濟ニ關スル研究ヲ集メラルルノ謔ニ贊意ヲ表シタガ、不幸、二豎ニ犯サレ病院籠城ヲ爲スノ厄ニ遇フタ爲メ之ヲ果スコト能ハズ、纔カニ舊稿ヲ以テ資ヲ察キタルノハ甚ダ遺憾トシツツアル所デアアル。諸右右報告ノ中ニ就キテモ米國中及特ニ南米トノ關係ニ論及スル左記三文ハ日本ノ支那又ハ東南洋トノ關係ト引當テテ

第二卷 (第三號 一三五) 四五一

1) Ingersoll, War or scientific taxation. (in America's Interests after the European War.)
2) America's Interests after the European War. (The Annuals of the American Academy of Political and Social Science. Vol. LXI.)

最興味アリト信シタルニヨリ、左ニ其要旨ヲ綜合紹介シ併セテ日支關係ニツキテノ舉凡ヲ附説スル。

- 1) Charles M. Muehnic, What can the United States and Latin America do for each other.
- 2) Louis F. Corea, Relations of Central and South America with the United States as affected by the European War.
- 3) Welding King, Transportation facilities needed for Latin American trade.

一

今ヤ米國ハ歐洲諸國ノ南米ニ力ヲ用ケル暇ナキニ乘シ。併セテ戰後モ彼等ガ此處ニ活動スル餘力ノ乏シカラントスルヲ洞察シ、之ニ應ジテ其經濟的勢力ヲ伸バスヘク切りニ畫策且ツ實行シツツアル。一體南米デハ從來歐洲諸國特ニ英獨佛伊人等ガ勢力ヲ占メテ、米國ハ經濟上之ト競争スルコトガ出來ナカツタ。もんろー主義ハ即チ此點ニ於テ全ク徹底シテ居ナカツタノデア。然ラバ其原因ハ何處ニアツタカトイフト、凡ソ左ノ如クデア。ル。

(A) 金融放資上ノ原因

(い) 放資關係——米國ハ從來南米諸國ノ企業、鐵

道、鐵山、國及地方的企業ニ放資スルコト少ク、其等ハ大抵歐洲資本ニヨツテ行ハレテ居タ、隨ツテ、技師理事者ノ地位モ自ラ歐人ニ多ク占メラルルコトトナリ。(例之あるせんちんノ鐵道二萬ノ九〇、%ガ歐ノ技術者ニヨリ處理セラル)、材料モ亦タ自ラ歐洲ヨリ取寄セ使ハルルコトトナツテ居タ。歐洲資本家ノ直接關係セザル政府筋ノ事業ニ在テモ、多少其資本ヲ歐洲ヨリ仰グトイフ關係モアリ、國內一般ガ歐洲勢力ノ下ニ立ツ關係モアツテ、自ラ凡ベテガ歐式トナリ、米式デハ通用セストイフコトトナリ、此點カラシテモ米國工業家ハ其產物ノ販路ヲ此處ニ有スルコトガ出來ナイコトトナツテ居タ。まぢにつく

(ろ) 金融關係——由來此地ニ來ツテ商業ヲ營ミ賣付ニ從事シテ居タル歐洲人ハ、此地ニ於ケル歐洲銀行ノ支店ヨリ豐カナル金融上ノ助力ヲ受ケテ居タ。隨テ彼等歐洲商人ガ土地ノ人ニ物ヲ賣ルノニハ頗ル長期ノ信用ヲ與ヘテ居タ。勿論其ニハ自然頗ル高キ利子ヲ込メテ賣ルコトニナル。其長期手形ヲ銀行ガ進ンデ割引シ援助ヲ與

フル。然ルニ米國商人ハ高イ利子ヲ拂ハレテモ
斯ノ如キ長期手形ヲ嫌ツテ現金カ、左モナクバ
極短期ノ手形ヲ取ル。商業家ガ彼ヲ嫌ツタノハ
畢竟銀行的援助ノ乏シカツタ爲メデアル、地上
地ノ人々ガ自ラ米商人ヲ去ツテ歐商人ノ手ヨリ
多ク物ヲ買フコトニナツタノモ無理ハナイ。
(りんぐ、まぢにつく、これゑ)

而シテ右放資及金融關係ノ米國ニ不利デアツ
タノハ、畢竟米國ガ資本關係ニ於テ從來餘裕ノ
乏シカツタノト、詳言スレバ國內ニ助クヘキ多
クノモノヲ有ツテ南米ナドニ放下スル餘裕ノ乏
シカツタ爲メト、今一ツハ米國々立銀行制度ノ
從來國外支店ヲ制限シタルトニ出ヅル。

(B) 交通上ノ原因

米國工業品ノ南米賣行ノ振ハナカツタ他ノ重
大原因ハ、米國ト南米トノ航運ガ歐洲諸國ト南
米トノ間ノ其ヨリモ不利ナルモノアルコトデア
ル。由來此米國ト南米トノ間ニハ米國船ニヨル
聯絡少クシテ、却ツテ歐洲船ノ本國ト南米トヲ
聯絡スル序ヲ以テ爲ス所ノ聯絡ノムシロ多キ所

デアツタ。(まぢにつく、りんぐ) 斯ノ如ク米國貿易
ガ米國船ニヨリ行ハレナイデ、外國船ニ依リ行
ハルコトハ米國ノ如キ第一位國ノ自尊心ヲ傷
クルコト大デアアルガ、經濟上カライフテモ、運賃
割高トナル傾ガアル。隨ツテ米國貿易ハ不利ヲ
免レヌ。加之此度戰爭ガ初マツテ歐洲船ノ此航
路ヨリ引上ゲラルモノノ増加スルヤ、北米ト
南米トノ間ニハ聯絡船ノ缺乏ヲ生ジテ船賃騰貴
ノ甚シキニ苦シムコトトナツタ。(これゑ) 然ラバ
斯ク此方面ニ米國船ノ少カツタ原因果シテ如何
此ハ一般的原因ト特殊的原因トニ分ツテ研究ス
ルヲ要スル。

(一) 一般的原因 由來米國デハ南北戰爭前マデ
ハ航海ガ非常ニ盛ンデ、其外國貿易ハ大抵自國
船ニヨツタモノデアアル。其ガ今ヤ一體ニ外國船
ノ侵入ヲ受クルコトトナツタノハ

(1) 其頃ヨリ鐵船ガ木船ニ代ハルコトトナツ
タノニ、當時英國ガ世界一ノ製鐵國デアツタガ
爲メニ、有利ニ造船スルヲ得、其爲メニ英國船
ガ米國船ヲ驅逐シタルニ因ルヤ大イ。(まぢにつく)

(2) 加之元來造船ニモ船ノ運轉ニモ割合ニ多
人數ヲ要スルノニ、勞賃ノ高キ米國ニハ造船運
轉共ニ不利ナル傾アルコトモ與ツテ居ル。(りん
ぐ)

(3) 更ニハ米國ノ航海法ノ拘束ガ外國ニ比シ
テ一層煩瑣ナルコトモ米國航海業ノ發達ヲ妨ゲ
テ居ル。(りんぐ、まぢにつく)

(ろ) 特殊の原因ニ特ニ南米航路ニツキテハ、南
米ト歐洲トノ間ニハ工業品ト原料生活材料トノ
交互貿易關係ガ存立シテ、隨ツテ歐洲工業品ハ
割合ニ安キ運賃ニテ持行カルルコトノ出來ルノ
ニ反シ、米國ト南米トノ間ニハ米國工業品ノ南
米ニ持行クベキモノハアツテモ、南米モ北米モ
共ニ原料生活材料供給國デ、南米ヨリ北米ニ持
行カルヘキ適當ノモノガ少ク、特ニハ北米合衆
國ノ方デハ此等ノ原料品等ニ關稅ヲ課スルノ爲
メニモ持行カルルコトガ困難デアリ、隨テ米國
ト南米トノ間ニハ片貿易ノ行ハルル傾ガアリ、
米國工業品ハ勢ヒ運賃ガ高クナラナケレバナラ
ヌ。漸ク歐洲船ノ如ク主トシテ本國トノ聯絡ヲ

取り唯タ補充的ノ仕事トシテ南北米聯絡ニ當ル
ニ於テ、多少安キ運賃ヲ以テモ應スルヲ得ルニ
止マル。其デモ勿論割高タルヲ免レヌシ、勢ヒ
米國工業品ノ南米輸出ハ盛ナルヲ得ヌ。勿論北
米南米間ヲ専門トスル米國船ハ不利ヲ免レナイ
然ルトキハ更ニ南米貿易モ振フコトノ出來ナク
ナルヲ免レナイ。(まぢにつく)

(C) 商業技術上ノ原因 更ニ

(い) 從來歐洲人特ニ新進ノ獨逸人ハ南米需要ノ
研究ヲ十分爲シタル上ニテ輸出ヲ計リタルニ、
米國人ハ此研究ノ不十分ナリシ傾ガアル。(りん
ぐ)

(ろ) 加之現時ノ米國工業ヲ代表シテ此地ニ駐在
スル商業者ノ能力ガ歐洲ノ其ニ比シテ遙カニ劣
ルトイフコトモ米國ノ勢力不振ノ原因デアル。
(まぢにつく)

二

(A) 以上ノ諸妨害原因ノ中ニ就キ、金融放資ニツ
イテハ、戰後當分ハ歐洲ガ資本過剩ヲ感セザル
コトトナリ、此地ニ於ケル企業ニモ商業取引ニ

モ放資又ハ金融ヲ爲ス力ノ乏シクナルノニ、米國ハ相對的ニ此ノ如キ餘力ヲ一層多ク持ツコトトナルデアラウ。(りんぐ、まぢにつく) 隨ツテ米國ハ進ンデ此方面ニ於ケル準備ヲ爲スヘキデ、又現ニ米國ノ銀行制度ニ改革ガ行ハレ、なしよなるしちーばんくハリをトぶゆえのすえゝるすトニ支店ヲ出シテ、大ニ米國人ノ放資及金融ヲ便スルコトトナツタ。此ニヨツテ戰後ハ大ニ從來ノ缺陷ヲ補フコトガ出來ヤウ。(これあ、まぢにつく) 否ナ戰後ヲ待ツマデモナク、既ニ開戰後、歐洲ノ金融的勢力ノ南米ニ於ケル缺陷カ生ズルコトニナツタニツイテハ勢ヒ、米國ニ依ルノ外ナキコトトナツテ居ル。

(B) スク金融及放資ガ盛ニ行ハルルコトトナレバ米國工業品ノ南米輸出カ便利トナルガ、商業技術上ヨリイフモ、此度ノ戰爭ニヨリ歐洲品ノ這入ラヌコトトナツタニ就イテハ已ムヲ得ズ米國品ヲ用ユルコトニナリ、初メハ不平ガアツテモ用キ慣レルト今度ハ却ツテ益々米國品ニ執着スルコトニモナルシ(これあ)、更ニ其上ニモ米國ニ

於テ南米研究ヲ進メテ此地ニ適當ナル需要品ヲ供給スルコトヲ計ルコトガ肝要、(りんぐ) 又商業上ノ代表者ヲモ有能ナルモノト取替エルコトガ肝要デアルガ、(まぢにつく) 此等ノ改良ハ實行必スシモ困難デナイカラ、恐ラク今後相當ニ其カ行ハルルコトデアラウ。特ニ此戰爭以來、南北両米聯邦トイフ政治上ノ精神ガ盛ンシナツタカラ、之ヲ經濟上ニ利用スルコトモ出來ヤウシ、又外交上ヨリ此ヲ一層強固ニスルノ途ヲ講スベキデモアラウ。(これあ) 更ニ學問ノ方面ニ於テモ交換教授、南米研究ノ進捗等ニヨツテ之ヲ補足スヘク、(これあ) スクテ米國ニ取リ一層好都合トナラウ。但シ政治上ノ好感ノミデ商業ガ盛ニナルモノデハナイ。根底ハ飽迄モ經濟上有利ナルモノ存在トイフコトデナクレバナラス。(まぢにつく)

(C) 更ニ交通上ノ妨害ヲ排除スルコトガ必要デハアルガ(これあ、まぢにつく) 此ニ至テハ全然解決スルコトノ出來ナイ點ガ多少アル。成程米國ノ製鐵ハ今ヤ英國ヲ凌駕シテ世界一位トナツテ居ル又米國ノ航海法ヲ改正シテ米國船ノ解放ヲ行

ヒ米國船ノ活動ヲ自由ニスルコト(まことにつく)ト米國ノ關稅法ヲ改正シテ南米產物ノ米國輸入ヲ自由ニシ以テ對南米ノ片貿易ヲ矯正スルコト(まことにつく)トハ將來行ハウトスレバ行ヒ得ルコトデハアルガ、併シ幾ラ輸入稅ヲ免減シタトテモ、所詮米國自身モ南米ト均シク原料生活材料供給國デアアルカラ、南米產物ノ輸入ヲ進ムルコトハ多少困難ナラザルヲ得ナイ。其レニ造船及船舶運轉ニ人ヲ多ク要シ、勞賃ノ高キコトハ之ヲ矯正スルコト洵ニ難イ。

斯ク觀ジ來ルト米國ノ南米貿易ノ發展ニ尙ホ多少障礙ノ排除スルコト困難ナルモノハアルガ、諸多ノ有利ナル事情カ増加シタコトデアアルカラ、將來ハ一層有望デアラウ。又米國トシテハ茲ニ全力ヲ注グモノト考エラレル。

三

今右南北米關係ヲ我日支ノ關係ニ引當テテ考察スルコトハ興味アル事デアアル。日本モ歐諸國工業ガ支邦初メ東南洋諸邦ニ手ヲ延バス餘裕ナキニ乘ジテ着々產物ヲ賣付クルコトガ出來、初

メハ日本品ヲ好マナイデモ、使ヒ慣レテ居ル内ニハ之デナクテハナラヌヤウニモナリ得ル。然ルトキハ其レダケデモ戰後歐洲品ノ活動ガ困難ニナルガ、彼等ガ戰爭ノ大負擔ノ爲メニ日本品トノ競争上不利トナルトイフコトモアルシ、此等ノ販路地域ノ民度ノ低キコトハ日本品ノ如キ劣等品デモ相當ニ需要セラレ得ル望モアリ、其等ノ地ニ對スル日本ノ地理的關係ハ歐洲ヨリモ一層有利デアリ、交通ノ方モ造船材料ニ於テ不利ナルモノハアルガ、之ヲ除ケバ凡ヘテ有利デアリ、彼地ヨリ原料生活材料ヲ輸入スルノ必要ハ日本ニハ大ニアツテ片貿易トセザラシムルヲ得ルノ見込モアリ、否ナ東印度ノ如キヨリハ買取ルヘキ物ガ多過キテ片貿易トナル傾サヘアル程デアアルカラ、尙更ラニ便利デアリ、益々日本ノ此等ノ地ニ對スル貿易ハ進ムデアラウ。但ダ日本ノ此ニ關シテ遺憾ナルコトハ企業組織ト金融トデアアル。日本ノ工業者ガ過小デ御互同志ノ眼前的競争ニ追ハレテ粗製濫造ニ流レ易ク、其信用ノ乏シキヨリ銀行家ノ金融的助力ヲ受クルコ

トモ難イトイフ不利ガアル。今ヤ日本ノ餘力ヲ生シタル資金ヲ以テ一層彼等ヲ助成スルコトガ望マシイガ、彼等自身ノ企業組織ガ一層強大ナルモノトナラヌ以上ハ之ヲ實行スルニ由モナイ。又貿易ヲ進捗スルカ爲メニハ、賣買手形上ノ金融ノミナラズ、販路地ニ對スル放資事業ヲモ盛ニ營ムコトガ必要ナルコトハ南北米關係ニツキイヘル所ニ依ツテモ明デアラウ。此放資關係ガ進ムト彼我兩國間ニ和親ノ好感ヲ進ムルコトニモナル。現今日本ト特ニ支那トノ間ニハ精神的ニ不和ナル關係ガアツテ、南北米間ノ如クデナイノハ甚ダ遺憾デアアルガ、切角放資關係ニヨツテ多少ナリトモ緩和シタイモノデアアル。尙ホ兩國ノ精神的關係ニツキテハ爲スヘキ諸他ノ事業ガアラウガ、之ガ實果ヲ舉クルトイフコトハ孰レモ容易ノコトデアアルマイシ、商業ハ好惡ノ感情ヨリハ利益ノ打算ニヨルコトノ大イモノ故、經濟上ノ根底サヘ備ハレバ、此精神的關係ナドハ左様ニ心配スル程ノコトデモアルマイ。